

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4093000091		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホームあんしん		
所在地	筑紫野市武蔵5丁目3番23号 (電話) 092-918-6767		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 1 日	評価結果確定日	令和 6 年 3 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気での共同生活ができるように、スタッフは制服ではなく普段着で接し、食事においても季節のものを取り入れながら家庭料理をスタッフが作り提供している。在宅での生活と同じように食後には体を休めるように休憩の時間を取り入れ、また個別に散歩に行ったりしている。入居者同士の会話の橋渡しを行い交流ができるようにしている。自由に個室で過ごされたりリビングで過ごされても良いようにし、個別性を重んじるようにしている。感染や気候を考慮しながらなるべく外出する機会や屋外活動、家族との面会時間が増えるようにしていきたい。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 6 年 2 月 26 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者にとって本当の家になるようなグループホームの運営を目指している。職員の子育ての悩みを利用者に相談する等、ともに支えあう関係が出来上がっている。視力低下した利用者の新聞を職員が代読すると利用者が集まり、内容を吟味し発言して場が盛り上がる等家族に近い一体感がみられる。管理者は、職員の人間性の向上、スキルアップに熱心に取り組んでいる。全職員を管理者として育てる姿勢がみられる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の理念は、誰もが見える窓口に掲示しており、職員は日頃から理念を意識した上で職務にあたっている。また、その理念を職員間で共有している。	理念に地域密着の視点がある。介護現場で理念の具現化を図っている。管理者、職員が現場で気付いた時にその場で話し合い改善することが習慣になっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、思うように活動できていないのが現状であるが、敬老の日には子供会からもかわいい贈り物をいただいた。散歩中にご近所の方から挨拶されることもあ、日常的な挨拶や会話などを大切にしながら、地域との関係が途絶えないように心がけている。	自治会に加入しており、子供会からの差し入れもある。毎日の散歩コースにある商店とは顔なじみであり、おしゃべりをしたり野菜を貰ったりの関係を築いている。夏まつり、花火大会も計画しており、例年通り地域住民の参加を呼びかける予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で、認知症に対する理解を深めていくことは大切であるが、夏祭りやどんど焼きなど時刻や気候によっては参加しにくい面もあるが、地域の掃除など参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会長を含め毎回、様々な意見交換をしながら、事業所間の交流、アドバイスや問題点を話し合っている。事業所は出席者の意見を参考にし業務に活かしている。また、事業所の困りごとにもアドバイスをもらうとともに、事業所の理解を深めてもらっている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っている。出席の行政職員への身体拘束に対する質問や避難経路の見直しについて、自治会代表者を交えて検討し、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の相談事に親身に相談に乗って頂いている。（身体拘束の件、災害時のこと、身寄りのない方の受け入れの相談など）	身寄りのない方の入居に際し、行政・社協等と連携する等日頃から事業所の運営について相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員はご利用者の権利を尊重しており、生活の質を下げる身体拘束を理解している。見守りを徹底することで、安全安心な介護サービスを行っている。定期的な勉強会を通して、身体拘束について学びながら実践している。	日中、玄関の施錠はしていない。身体拘束ゼロの方針を掲げ、支援を行っている。運営推進会議を活用して身体拘束についての質疑応答を行うことで、日々研鑽している。研修を実施し、職員は身体拘束しないケアについて理解を深めている。また、行政や自治会の意見や情報を得ながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行っている。管理者をはじめ、全職員は高齢者虐待関連法を学びながら虐待の防止を徹底している。また、職員間でも入浴時に不審な皮下出血などないか注意を払いながら、業務を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて権利擁護に関する制度は学んでいる。事業所内にも日常生活自立支援事業を利用している方、身寄りのない方の受け入れ時に考える機会もあり、身近に学ぶことが出来ている。	月一回の勉強会で権利擁護に関する制度の理解と活用について話し合っている。制度の理解を深めるために行政の関連部門との連携を一層図る意向である。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に、重要事項説明書・契約書をご利用者やご家族に確認しながら説明を行っている。また、疑問点があればいつでもお尋ねできるように伝えている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の家族には、毎月本人様の様子を手紙にて報告し、必要時には電話をしてお知らせをして意見をお聞きしている。改善できるところは職員間でも話し合い改善するようにしている。	経験の長い職員が多く在籍しており、利用者との信頼関係を築いている。食べ物、洋服、化粧品のリクエストなど生活に関する利用者の要望、意見を丁寧に聴き取り、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第4木曜日に職員会議を行っている。その際に職員の要望や意見を話し合っている。提案を活かしながら、運営に反映している。	職員との間で運営に関する意見や提案を話しやすいように配慮しており、できることは素早く取り入れている。利用者の水分摂取の量を正確に把握するためにコップを工夫する等話し合いながら実践している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は人事考課表をもとに、普段の仕事ぶり等を評価しながら、職員一人ひとりと面談を行っている。また、職員会議等で業務改善を行いながら働きやすい環境作りを努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別及び年齢などの制限は設けていない。職員の希望を重視しながら、シフト調整を柔軟にすることで職員が望む社会参加への協力に取り組んでいる。	職員の定年年齢は60歳であるが、65歳まで更新延長され、それ以降についても勤務が可能である。長く勤めている職員が多く、働きやすい環境づくりに努めている。法人間で希望する部門への配置換えも可能である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的な勉強会を通して、人権教育や啓発活動を行っている。事業所はご利用者一人ひとりの尊厳を理念に掲げており、人権尊重に努めながら業務を行っている。 また、オンライン研修に参加し理解を深めている。	オンラインによる内部研修が行われている。今年度からは、人権週間時に行政が主催する各種研修への参加を検討している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員にオンライン研修や外部研修の情報提供を行い、希望する研修に参加出来るよう取り組んでいる。また、本人の能力に応じ役割を分担している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン研修や、実際の研修、市主催の集団指導参加にて情報交換ができるようにつとめている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階より、関係者から現状確認を行い、必要に応じて管理者、介護支援専門員が本人と面談している。現在の本人のお困り事や課題を全職員で考え、問題点を共有している。また、日常使用されているものや安心できるものはご持参できるようにしている。ご家族ともお会いできることをお話ししている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャーやMSWご家族の現状や環境を把握し、ご家族の意向・本人への思いをしっかりと傾聴した上で、ご家族が安心して頂ける対応を心がけている。ご本人とも面会できることをお伝えし、金銭面においてもお預かり金は1回/月ご報告することを説明している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前のアセスメントで、ご本人の困っていることや要望・不安に対して、ご本人・ご家族と一緒に話し合い、どのような支援を提供していくかを考えている。また、危険性もお伝えし、先にケアについて了解をもらっている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の今まで生きてこられた生活歴をヒントにしてコミュニケーションをとるきっかけにしている。その中からできることをみつけ一緒に活動するようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の現状も理解し、ご家族には1回/月お手紙にて状況をお伝えし、電話でもお伝えしている。ご家族にケアについて介入して頂くこともあり互助の関係を作っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が習慣としていた散歩などは取り入れ、外出時など以前通っていた道や住まわれていた場所などを通してにしている。	管理者、職員全員が利用者の馴染みの場所、人について把握している。通院時等外出の際には、利用者の生活していた場所に寄り添って事業所に帰ってくる等配慮している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他ご利用者と良好なコミュニケーションがとれるように、席の配置やレクリエーション活動の際の声かけに配慮している。共同生活の中で、気の合うご利用者どうしの会話ができるようにスタッフが橋渡しを行い支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時、ご不安なことやわからないことがあればいつでもご相談に乗ることをお伝えしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	どのような暮らしをされてきたのかを情報収集し、ご本人の希望を取り入れるようにしている。	職員は、日常的なかかわりの中で、利用者の思いや意向の把握に取り組んでいる。意思の疎通が難しい利用者には、表情や言動から思いを汲み取り、職員同士で情報共有をしている。その上で、一人ひとりの利用者が安心して生活が送れるように努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前よりケアマネージャーやご家族より、またご本人よりこれまでの生活歴や信念などを聞き取りを行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネージャーやMSW、ご家族から身体能力の情報収集を行い、ご本人との面談の際に心身の状態を確認している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、居宅ケアマネージャー等よりどんな暮らしを望んでいるかの把握を行っている。本人が抱えている問題点や家族の意向を踏まえ、今すぐに何が必要かに順位をつけながら取り組んでいる。担当者と介護支援専門員が毎月のモニタリングを行いながら、状態が変われば見直しを行っている。	常に本人・家族の意向に添って、入所時の基本情報やアセスメントをもとに、計画作成担当者を中心に全職員で今後の支援を検討している。ニーズを見出し、医療をはじめとした関係者の意見を取り入れた介護計画を作成している。見直しは、6か月を基本としつつ、入退院や心身の急激な変化に対応して実施している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者が発した言葉をそのまま記録することや、本人の状況や異変など記録している。またその記録をモニタリングや家族のお便り等に反映されている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応するようにご家族との協力や協力病院にも支援を求めている。気の合わない利用者や介助量によってはスタッフ同士交代したり助けを頼み介助を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症に配慮しているため、現在はボランティアの依頼は控えているが、今後感染状況をみながら依頼していく。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が入居前から決まっている場合は引き続きかかりつけ医に受診をしているが、状況が変わった場合はご家族に説明し変更している。受診の結果はご家族にお伝えしている。また必要と思われる場合は医師と家族の橋渡しをしている。	入所前のかかりつけ医を尊重している。受診には職員が同行しており、家族が同行することもある。受診後は、家族と施設が受診情報を共有するため報告し合うようにしている。受診結果の報告は電話で行っているが、併せて毎月の施設だよりに検査データと共に手紙で知らせている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	従業者に看護師がいるため申し送りの中で情報の共有ができています。また事前に看護師指示があるためそれに沿って支援するようになっている。異常時には夜間も含め連絡が付く状態になっており、訪問看護2回/週のモニタリングもされている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はスムーズに入院生活や治療が行えるようにできるだけ介護サマリー等を作成し情報提供するとともに付き添いを行い病院スタッフの質問に対応できるようにしている。また入院中はMSWより経過報告の連絡がありスムーズな退院支援ができるようになっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所は「重度化に向けた方針」について、作成した資料をもとに、入所の際ご家族に説明している。終末期に関して、見取りは行っていないため事業所で出来ること・出来ないことをご家族に説明し納得して頂いている。地域の関係者とともチームでの支援に取り組むまでの体制はまだ出来ていない。	「重度化における対応指針」を策定している。入所時に本人・家族へ説明し、同意をいただいている。看取りを含めた終末期の対応については、家族との協議を丁寧に行い、合意内容に添って対応をしている。看取りは行っていない。医療連携も指針の重要事項として定め、職員への知識や対応力養成のため計画的に研修を実施している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対するマニュアルはありAED、心臓マッサージの仕方の研修も実施している。急変時の連絡体制は24時間オンコールにて出来ている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設防災計画に基づき行っている。消防署に事前連絡を入れた上で、災害時の避難訓練等行っている。また、連携推進会議時に包括支援センター、自治会長、市役所員の方々とも避難ルートについて話し合っている。	災害対応マニュアルを整備しており、夜間想定も含めた防災訓練や避難訓練を消防署等関係機関と連携して年2回実施している。事業所内に3日分の非常用食料・飲料水と備品を保管している。運営推進会議で訓練の参加を呼び掛けている。事業継続計画（BCP）については現在策定しているところである。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員は運営理念に沿い、ご利用者の尊厳や権利を守り業務を行っている。ご利用者一人ひとりの人格やプライバシーを確保し、気持ちに寄り添いながら、日々のケアを行っている。排泄時、入浴時など、個々の誇りやプライバシーに配慮した声かけ介助を行っている。	排泄・入浴時におけるプライバシーへの配慮し、一人ひとりの人格・人権を尊重するよう日々、全員で取り組んでいる。年間計画の中で研修を実施している。個人情報保護の観点から、家族以外からの入居者に関する問い合わせには職員は直接かわからず、管理者が責任を持って対応している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご利用者の日常生活に関わる中で、ご本人がしたいことや、希望の思い、願いなどを、普段の会話から引き出せるように心がけている。意思表示ができないご利用者であっても表情などで受け止めるように心がけながら、ご利用者の自己決定ができるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内の1日の流れはあるが、ご利用者一人ひとりのペースやリズムがあり、職員はそれを尊重しながら、本人が思うような生活を送って頂けるよう配慮している。また、施設の行事や活動の参加についてはご本人の意思を確認している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1度は訪問美容に来てもらいカットを行っている。カラーリングは行っていないが顔そりの依頼があれば行っている。女性であれば、お化粧のプレゼントをしたり、男性であれば髭剃りなど声掛けなど行っている。衣類を購入する際は、ご本人の好みや反映されるように一緒に行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考える時には利用者に何か召し上がりたいものはないか尋ねたりしている。食事を一緒に作ったり、お茶碗ふきなど一緒に行っている。	食事、おやつ、会食レク時の準備、配膳、後片づけを入居者と一緒に行っている。献立では、入居者の嗜好や食事形態にも配慮している。日頃から入居者一人ひとりの好きな食べ物や食べたいものなどを把握し、誕生会や季節の行事で提供している。外食や弁当食なども取り入れ、食事を楽しむ機会を設けている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は一日のトータル量を計り、摂取量が少ない方には促している。食事の栄養計算は行っていないため月初めの体重測定で栄養状態をみている。食欲がない方にはゼリー等にて対応し、むせがある方にはとろみを付ける等の対応をおこなっている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科のアドバイスがあり口腔ケア時の参考にしている。現在は毎食後に行っており、状況によっては歯磨き粉から水歯磨きに変更したり、ブラシを変更したりしている。ご自分でできない方は職員が援助している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレにて排泄を行ってもらうように誘導している。ご本人の状況によっては尿取りのパットやリハビリパンツ等の選定を行っている。	排泄チェック表を参考に、一人ひとりの排泄の傾向を把握し、早めの声かけや誘導を心がけている。同法人看護師等の協力も得て、自立に向けた排せつ支援に取り組んでいる。おむつの使用に関して検討を重ね、トイレを使用するようになった事例もある。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には定期的な便秘薬を使用しながら水分摂取や腹部マッサージを促し、歩行を多めにしている。また起床時に牛乳を提供するなど排便コントロールを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週3回の入浴を行っているが、受診日や体調により予定を変更したりシャワー浴、清拭にも変更している。入浴する気分ではないときには翌日にするなど対応している。	週3回の入浴を基本としているが、敢えて入浴日や時間帯を設定していない。希望があれば入浴、シャワー浴の対応が可能である。脱衣場所ではヒートショックにならないように保温に配慮し、皮膚乾燥防止のため入浴後の保湿クリーム等の塗布を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後には午睡されることもあり、お部屋へ誘導している。また、休まれたいときにはご本人がくつろぎやすいように日向ぼっこなどしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は服薬表に乗っ取って2名で確認し服薬時に再度確認するようにしている。内服の効果などの観察事項は看護師が介護職に伝えている。飲みにくい形状に変更を医師に依頼するなど支援している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会などの催し物や、季節の花々を見に行くなど気分転換ができるようにしている。また、ご家族に嗜好品をお持ちいただくなど楽しみを持つようにしている。ご家族には面会をして頂きやすいように声掛けしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候にもよるがお散歩を日課とされている方には散歩に付き添って行っている。受診時などお買い物に行きたいと希望があればお連れしている。	人が混みあう場所への外出は実施していない。近くの神社への初詣や昼食ランチ、ドライブを兼ねた季節の花見などを実施している。地域行事への参加は実施できなかったが、施設での花火大会には近所の方々も見に来てくれた。受診時に買い物をする等体調、天気を考慮した上で入居者それぞれの希望をかなえられるよう支援を考えている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方はお渡ししている。管理できない方に関しては入所時にどのようなことにお金を使うのか説明し事業所でお預かりし、1カ月に1度金銭出納帳のコピーを郵送し、求めがあればいつでも確認できることをお話している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所はご本人の希望、ご家族の理解により、携帯電話の使用は個々に支援している。手紙についても、本人が「出してほしい」と要望があれば投函を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく民家と同じような雰囲気でも過ごせるように外に洗濯物を干したり、その方の好みに合わせた空調や照明にしている。毎日、トイレや居室等を清掃し清潔に過ごせるようにしている。居室においては利用者のADLにも配慮し、模様替えを行っている。	季節を感じる花や手作りの作品やスナック写真等を飾りつけている。テレビの音や、日差しなどの明るさ、屋内の温度や湿度などの調整に配慮しながら居心地のよい共用空間を整えている。家族や入居者同士の交流が和やかに行われるよう、テーブルやソファの位置など雰囲気作りにも配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者とも話がしやすいようにソファを準備し、また窓のそばに椅子を準備し外が眺められ、一人の時間が楽しめるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自宅で使用されていたものや家具の配置などご家族とも話しながら配置している。現在は感染対策のため家族が居室に入ることはできないが、今後短時間でも居室で面会できるように配慮したい。	居室には馴染みの家具や寝具、仏壇等が持ち込まれており、それらの配置も本人・家族が行うことで、利用者一人ひとりに合わせた居心地の良い空間となっている。換気や日差しの調節、温度、夜の明るさや音等にも配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身の状態によってはトイレに近い場所等に居室移動し、トイレに行きやすくするなど工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の理念は、誰もが見える窓口に掲示しており、職員は日頃から理念を意識した上で職務にあたっている。また、その理念を職員間で共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、思うように活動できていないのが現状であるが、敬老の日には子供会からもかわいい贈り物をいただいた。散歩中にご近所の方から挨拶されることもあ、日常的な挨拶や会話などを大切にしながら、地域との関係が途絶えないように心がけている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で、認知症に対する理解を深めていくことは大切であるが、夏祭りやどんど焼きなど時刻や気候によっては参加しにくい面もあるが、地域の掃除など参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会長を含め毎回、様々な意見交換をしながら、事業所間の交流、アドバイスや問題点を話し合っている。事業所は出席者の意見を参考にし業務に活かしている。また、事業所の困りごとにもアドバイスをもらうとともに、事業所の理解を深めてもらっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の相談事に親身に相談に乗って頂いている。（身体拘束の件、災害時のこと、身寄りのない方の受け入れの相談など）		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員はご利用者の権利を尊重しており、生活の質を下げる身体拘束を理解している。見守りを徹底することで、安全安心な介護サービスを行っている。定期的な勉強会を通して、身体拘束について学びながら実践している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行っている。管理者をはじめ、全職員は高齢者虐待関連法を学びながら虐待の防止を徹底している。また、職員間でも入浴時に不審な皮下出血などないか注意を払いながら、業務を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて権利擁護に関する制度は学んでいる。事業所内にも日常生活自立支援事業を利用している方、身寄りのない方の受け入れ時に考える機会もあり、身近に学ぶことが出来ている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に、重要事項説明書・契約書をご利用者やご家族に確認しながら説明を行っている。また、疑問点があればいつでもお尋ねできるように伝えている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の家族には、毎月本人様の様子を手紙にて報告し、必要時には電話をしてお知らせをして意見をお聞きしている。改善できるところは職員間でも話し合い改善するようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第4木曜日に職員会議を行っている。その際に職員の要望や意見を話し合っている。提案を活かしながら、運営に反映している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は人事考課表をもとに、普段の仕事ぶり等を評価しながら、職員一人ひとりと面談を行っている。また、職員会議等で業務改善を行いながら働きやすい環境作りを努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別及び年齢などの制限は設けていない。職員の希望を重視しながら、シフト調整を柔軟にすることで職員が望む社会参加への協力に取り組んでいる。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的な勉強会を通して、人権教育や啓発活動を行っている。事業所はご利用者一人ひとりの尊厳を理念に掲げており、人権尊重に努めながら業務を行っている。 また、オンライン研修に参加し理解を深めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員にオンライン研修や外部研修の情報提供を行い、希望する研修に参加出来るよう取り組んでいる。また、本人の能力に応じ役割を分担している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン研修や、実際の研修、市主催の集団指導参加にて情報交換ができるようにつとめている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階より、関係者から現状確認を行い、必要に応じて管理者、介護支援専門員が本人と面談している。現在の本人のお困り事や課題を全職員で考え、問題点を共有している。また、日常使用されているものや安心できるものはご持参できるようにしている。ご家族ともお会いできることをお話ししている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャーやMSWご家族の現状や環境を把握し、ご家族の意向・本人への思いをしっかりと傾聴した上で、ご家族が安心して頂ける対応を心がけている。ご本人とも面会できることをお伝えし、金銭面においてもお預かり金は1回/月ご報告することを説明している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前のアセスメントで、ご本人の困っていることや要望・不安に対して、ご本人・ご家族と一緒に話し合い、どのような支援を提供していくかを考えている。また、危険性もお伝えし、先にケアについて了解をもらっている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の今まで生きてこられた生活歴をヒントにしてコミュニケーションをとるきっかけにしている。その中からできることをみつけ一緒に活動するようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の現状も理解し、ご家族には1回/月お手紙にて状況をお伝えし、電話でもお伝えしている。ご家族にケアについて介入して頂くこともあり互助の関係を作っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が習慣としていた散歩などは取り入れ、外出時など以前通っていた道や住まれていた場所などを通るようにしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他ご利用者と良好なコミュニケーションがとれるように、席の配置やレクリエーション活動の際の声かけに配慮している。共同生活の中で、気の合うご利用者どうしの会話ができるようにスタッフが橋渡しを行い支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時、ご不安なことやわからないことがあればいつでもご相談に乗ることをお伝えしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	どのような暮らしをされてきたのかを情報収集し、ご本人の希望を取り入れるようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前よりケアマネージャーやご家族より、またご本人よりこれまでの生活歴や信念などを聞き取りを行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネージャーやMSW、ご家族から身体能力の情報収集を行い、ご本人との面談の際に心身の状態を確認している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、居宅ケアマネージャー等よりどんな暮らしを望んでいるかの把握を行っている。本人が抱えている問題点や家族の意向を踏まえ、今すぐに何が必要かに順位をつけながら取り組んでいる。担当者と介護支援専門員が毎月のモニタリングを行いながら、状態が変われば見直しを行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者が発した言葉をそのまま記録することや、本人の状況や異変など記録している。またその記録をモニタリングや家族のお便り等に反映されている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応するようにご家族との協力や協力病院にも支援を求めている。気の合わない利用者や介助量によってはスタッフ同士交代したり助けを頼み介助を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症に配慮しているため、現在はボランティアの依頼は控えているが、今後感染状況をみながら依頼していく。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が入居前から決まっている場合は引き続きかかりつけ医に受診をしているが、状況が変わった場合はご家族に説明し変更している。受診の結果はご家族にお伝えしている。また必要と思われる場合は医師と家族の橋渡しをしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	従業者に看護師がいるため申し送りの中で情報の共有ができています。また事前に看護師指示があるためそれに沿って支援するようになっていいます。異常時には夜間も含め連絡が付く状態になっており、訪問看護2回/週のモニタリングもされています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はスムーズに入院生活や治療が行えるようにできるだけ介護サマリー等を作成し情報提供するとともに付き添いを行い病院スタッフの質問に対応できるようにしている。また入院中はMSWより経過報告の連絡がありスムーズな退院支援ができるようになっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所は「重度化に向けた方針」について、作成した資料をもとに、入所の際ご家族に説明している。終末期に関して、見取りは行っていないため事業所で出来ること・出来ないことをご家族に説明し納得して頂いている。地域の関係者とともチームでの支援に取り組むまでの体制はまだ出来ていない。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対するマニュアルはありAED、心臓マッサージの仕方の研修も実施している。急変時の連絡体制は24時間オンコールにて出来ている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設防災計画に基づき行っている。 消防署に事前連絡を入れた上で、災害時の避難訓練等行っている。また、連携推進会議時に包括支援センター、自治会長、市役所員の方々とも避難ルートについて話し合っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員は運営理念に沿い、ご利用者の尊厳や権利を守り業務を行っている。ご利用者一人ひとりの人格やプライバシーを確保し、気持ちに寄り添いながら、日々のケアを行っている。排泄時、入浴時など、個々の誇りやプライバシーに配慮した声かけ介助を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご利用者の日常生活に関わる中で、ご本人がしたいことや、希望の思い、願いなどを、普段の会話から引き出せるように心がけている。意思表示ができないご利用者であっても表情などで受け止めるように心がけながら、ご利用者の自己決定ができるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内の1日の流れはあるが、ご利用者一人ひとりのペースやリズムがあり、職員はそれを尊重しながら、本人が思うような生活を送って頂けるよう配慮している。また、施設の行事や活動の参加についてはご本人の意思を確認している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1度は訪問美容に来てもらいカットを行っている。カラーリングは行っていないが顔そりの依頼があれば行っている。女性であれば、お化粧のプレゼントをしたり、男性であれば髭剃りなど声掛けなど行っている。衣類を購入する際は、ご本人の好みや反映されるように一緒に行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考える時には利用者に何か召し上がりたいものはないか尋ねたりしている。食事を一緒に作ったり、お茶碗ふきなど一緒に行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は一日のトータル量を計り、摂取量が少ない方には促している。食事の栄養計算は行っていないため月初めの体重測定で栄養状態をみている。食欲がない方にはゼリー等にて対応し、むせがある方にはとろみを付ける等の対応をおこなっている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科のアドバイスがあり口腔ケア時の参考にしている。現在は毎食後に行っており、状況によっては歯磨き粉から水歯磨きに変更したり、ブラシを変更したりしている。ご自分でできない方は職員が援助している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレにて排泄を行ってもらうように誘導している。ご本人の状況によっては尿取りのパットやリハビリパンツ等の選定を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には定期的な便秘薬を使用しながら水分摂取や腹部マッサージを促し、歩行を多めにしている。また起床時に牛乳を提供するなど排便コントロールを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週3回の入浴を行っているが、受診日や体調により予定を変更したりシャワー浴、清拭にも変更している。入浴する気分ではないときには翌日にするなど対応している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後には午睡されることもあり、お部屋へ誘導している。また、休まれたいときにはご本人がくつろぎやすいように日向ぼっこなどしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は服薬表に乗っ取って2名で確認し服薬時に再度確認するようにしている。内服の効果などの観察事項は看護師が介護職に伝えている。飲みにくい形状に変更を医師に依頼するなど支援している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会などの催し物や、季節の花々を見に行くなど気分転換ができるようにしている。また、ご家族に嗜好品をお持ちいただくなど楽しみを持つようにしている。ご家族には面会をして頂きやすいように声掛けしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候にもよるがお散歩を日課とされている方には散歩に付き添って行っている。受診時などお買い物に行きたいと希望があればお連れしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方はお渡ししている。管理できない方に関しては入所時にどのようなことにお金を使うのか説明し事業所でお預かりし、1カ月に1度金銭出納帳のコピーを郵送し、求めがあればいつでも確認できることをお話している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所はご本人の希望、ご家族の理解により、携帯電話の使用は個々に支援している。手紙についても、本人が「出してほしい」と要望があれば投函を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく民家と同じような雰囲気でも過ごせるように外に洗濯物を干したり、その方の好みに合わせた空調や照明にしている。毎日、トイレや居室等を清掃し清潔に過ごせるようにしている。居室においては利用者のADLにも配慮し、模様替えを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者とも話がしやすいようにソファを準備し、また窓のそばに椅子を準備し外が眺められ、一人の時間が楽しめるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自宅で使用されていたものや家具の配置などご家族とも話しながら配置している。現在は感染対策のため家族が居室に入ることはできないが、今後短時間でも居室で面会できるように配慮したい。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身の状態によってはトイレに近い場所等に居室移動し、トイレに行きやすくするなど工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		